

## 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人こどもエコクラブ飯能W
活動名	地域で小学生の放課後居場所づくり ～もしも学校で災害がおこったら～
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 平和分野
<b>事業の目的</b>	
地域に住むすべての子どもたちが放課後の時間帯、安全で安心して友達と過ごせる「居場所づくり」を目的としています。現在、飯能市では教育委員会生涯学習課が主体となり、「子ども教室事業」を放課後実施しています。しかし小規模特認校の3校のみに留まっています。大規模小規模に関係なく市内全12校の小学校に放課後の居場所が必要ではないかと感じました。私共、NPOが小学校や地域の方々と協力しながら放課後の居場所をつくることで課題解決に繋がると活動を始めました。合わせて予測不能な災害に遭遇した時の知識も学んでいます。2年前、埼玉県NPO活動促進助成事業にて小学校の近隣施設を借り、放課後の居場所づくりを行いました。低学年の保護者から、「共働きのため、子どもが下校してから、ここまで送迎できない。」との声を多数、頂戴しました。2年前の利用者は10名前後でしたが、現在30～50名の利用者がいます。小学校で放課後居場所づくりをする必要性を実感しています。	
<b>事業で取り組んだ地域や社会の課題</b>	
私どもNPO法人が小学校で放課後の居場所づくりを実施するには小学校の協力が必須ですが現在、現場では教員の働き方改革をすすめようと、動いています。小学校と私どもNPOでの放課後の居場所づくりの「想い」のズレを感じました。私どもの想いが小学校側の負担になったことは少なからずあり、先生方の時間を割いています。年数を重ね、出来るだけ小学校に負担をかけない形をつくりたい。子ども達の安全面を第一に考えると下校時、児童との引き渡しは手厚くする必要があったと感じました。さらに市と協体制度ができればと考えているが、市が行っている小規模特認校限定の子ども教室事業と趣旨が違うとのこと。いずれも私どもNPOが継続し信頼関係を構築できるように活動を続けることが大切だと感じる。また会場となる体育館は暑さ寒さ対策が難しい。今後は場所を変えての開催も検討したい。	
<b>取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</b>	
自分の身体の守り方・・・講師に助産師を招き、プライベートゾーンなどについて学ぶ。また乳児の人形を用い命の大切さについても学ぶ。多様な方々を知る・・・バラスポーツ体験(ポッチャ)・車椅子体験・認知症講座を通して助け合う心を育む。体験することで実感に繋がった。調理実習・・・コロナ過で調理実習ができなかった。餅つき、お菓子作りを通して、基本的な調理の仕方、助け合って調理する体験をした。段ボール工作・・・段ボールを使って、簡易的な家や床を自由に作った。寝心地について工夫したり居心地の良さを工夫していた。SDGsの話・・・自分たちの住む地域の自慢したい所について友達と話し郷土愛を育んだ。自然を大切にしたい気持ちが芽生えた。その他・・・座禅をとおして周りの音に耳をすまし、今の状況がどんな状況か確認した。またかき氷をつくりながら、暑さ対策についても学んだ。すべての活動はもしもの緊急事態時に備えてもらいたい学習に繋がっている。人と人が助け合い協力し合う活動を12日間実施した。	
<b>事業実施により達成した成果の具体的な内容</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ小学校に通いながらも、全く交流のなかった異学年との交流が盛んになった。転校生のお子さんの友達づくりにも繋がった。</li> <li>・地域に住む方々に講師として来て頂き、小学生と関わってもらえる機会をつくる事ができた。保護者のボランティアスタッフも受け入れ、人と人がつながる「場」を創設できた。</li> <li>・子ども達のもしものことがあった場合の予備知識としてスタッフ一同で救命救急の講習に参加した。スタッフの意識が向上した。</li> <li>・地域の関係機関との繋がりが強化された。(心応寺・飯能清掃センター・SOMPOケア・飯能市社会福祉協議会・飯能幼稚園・大川学園高等学校・加治小学校PTA)</li> <li>・高学年に司会や読み聞かせ、お迎え時の低学年の受け渡し、掃除に参加してもらった。自分たちも何かしたい！という自主性が身に付いた。</li> <li>・児童が怪我をした時や忘れ物のお知らせと小まめにする事によって保護者とスタッフとの間に信頼関係が芽生え、喜びの声も多く頂いた。</li> </ul>	

<b>費用面での工夫</b>
・保護者やボランティアの受け入れをした。
・スタッフ、講師の持っているもの不要なものは積極的に使用した。(ブルーシート・調理用品・ハサミ・ペンなど)
・プログラム段ボール工作では段ボールを購入せず、地域の店に声をかけ集めた。使用後はリサイクル業者に回収してもらった。
・材料費を購入する際には数件、値段の比較をして安価な方で購入した。活動内容を見直し無駄がでないよう心掛けた。
・プログラム自体、高価な材料がかからないものを工夫して実施した。
・寄付頂けるものを積極的に利用した。(埼玉県共助社会づくり課・ウッドパズル、カイロ、カレンダー/地域の会社・工作用段ボール、大きな紙/PTA)
・参加者から登録費を頂いた。
<b>地域社会への還元</b>
・地域の小学生と保護者が安心して安全に過ごせる放課後の居場所を創造できた。
・地域の方と小学生が交流できる場を提供できた。
・活動を通して小学生に郷土愛を育むことができた。ちょっとした悩みや愚痴を言い合える関係が築けた。
・地域で埋もれている人材・子どもに対する想いを集結することができた。講師になった方々から「居場所づくり」のアイデアを貰った。
・小学校の空き教室を有効活用できた。
・未来を担う、小学生に多様な考え、学習を提供できた。
・地域の企業が不要なものを寄付頂き、子ども達の学習のために使えた。
<b>今後どのように事業を継続し発展させるか</b>
・地域の企業・自治会からの寄付
・地域の大学生、高校生などの学生ボランティアの開拓
・現スタッフの知識の向上(研修会の実施・救命救急講習の参加など)
・他団体との協力の継続と拡大
・飯能市との協力の打診
・アンケートなどで保護者の感想をヒヤリングし、今後の活動に生かし、さらに信頼関係の構築の努める。
・反省点をお互いに話、小学校との信頼関係の強化する。

## 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人こどもエコクラブ飯能W

### 1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	460,000	426,000	△ 34,000	
自己資金	51,890	47,897	△ 3,993	
活動実施による収入等	81,000	59,900	△ 21,100	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	592,890	533,797	△ 59,093	

### 2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	0	0	0	
通信運搬費	1,350	370	△ 980	
旅費交通費	4,500	3,620	△ 880	
消耗品費	192,400	175,279	△ 17,121	
備品費	0	0	0	
委託費	0	0	0	
謝金	194,000	160,000	△ 34,000	
人件費	180,000	177,000	△ 3,000	
その他	20,640	17,528	△ 3,112	
支出の部 合計	592,890	533,797	△ 59,093	